魏の世、數〻蠕々の、侵す所と爲り、西に徙つて葱嶺の山中に入る。隋の太祖開皇中（五百八、九十年代）達頭可汗、突厥と烏孫の故地を分ちて西突厥と號す。唐の太宗貞觀中（六百三十年代）吐陸、失利と相爭ひ、遂に伊列河（伊犂河）の諸部と約し、河以西は吐陸之を主り河以東は咥失利之を主る高宗の顯慶中（六百五十年代）唐に入貢し、其地を以て休循都督府と爲す。武后の朝（六百八十年代）西域に雄たるも、後黃黑兩姓に二分して、拮抗寧日なし、玄宗の開元三年（七百十五年）吐蕃、阿了達を立てゝ王とす。天寶三年（七百四十四年）國を改めて寧遠と稱し、姓を竇と賜ふ。同十三年王忠節來貢、後又回鶻と爲る。元の代（千二百年代）阿里馬、明の代（千四百年代）厄魯特、四部に分れ、綽羅斯部其主に居り、即ち準噶爾とす。

伊犂將軍の好意

六、伊犂と南路との交通路

予は今や伊犂を出發すべきに臨みたり。而して伊犂滯留中は將軍衙門の各官其他の文武官より歡待厚遇尋常ならず、殊に長將軍の厚意に因りて、自後必要の天幕、乘、馱馬、糧秣等の準備は、一切沿途游牧民よりの供給を受くることゝ爲り、予は只若干の土產品、即ち游牧民が最も珍とする所の茶を主に用意せし位に止まりて何等の支度も要せざるに至るは是れ實に意外の幸福にて、深く將軍に感謝せざるべ